

新年のご挨拶

若桜町長 上川 元張

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、穏やかで希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、NHKの朝ドラ「虎に翼」が話題となりましたが、主人公寅子のモデルとなった三淵嘉子さんと大学の同級生で、ともに日本初の女性弁護士となったのが、鳥取県弁護士会会長などを歴任された中田正子さん。ドラマをきっかけに、夫で根拠出身の政治家家中田吉雄さんとともに脚光を浴び、たくみの館では夫婦展が開催され、多くの来場者で賑わいました。

また、森井勇佑監督の映画「ルート29」が11月に公開されました。映画は国道29号沿線が舞台となり、若桜学園の児童も出演、みずみずしく感性豊かな美しい作品です。原作は下町出身の中尾太一さ

んの詩集「ルート29―解放」。これを機に、現代詩人として活躍する中尾さんの作品の持つ、圧倒的に豊かな言葉の世界に触れた方も多かったのではないのでしょうか。本町ゆかりの偉大な方々が注目を集めた年でした。

さて、この一年の町政の動きを振り返ってみます。

昨年は、元日から能登半島地震に見舞われました。住民の生命や財産に甚大な被害を与え、秋の豪雨災害も重なって、今なお多くの方々が生活再建の途上にあります。被災地の一日も早い復興をお祈りします。町では、能登半島地震を教訓に町の防災対策を点検し、住宅耐震化の呼び掛け、庁舎や水道水源、避難所街灯の無停電対策などに取り組みしました。また、昨夏も観測史上最高気温を更新する酷暑となりましたが、公共施設



設を中心にクールスポットを整備し町民の利用に供するなど、熱中症対策を強化しました。

10月には全国健康福祉祭（ねんりんピック）鳥取大会が開催され、本町では健康マージャンの会場として、全国から400人を超える選手・役員をお迎えしました。第一町民体育館に70を超える麻雀卓が並ぶ壮観の中、大会運営は円滑



▲ねんりんピック鳥取県大会若桜町健康マージャン会場の様子

に、町民の皆さんのもてなしも好評で成功裏に開催できました。健康マージャンは女性や子どもなどに競技人口が広がっており、本町でも大会開催のレガシーとして、今後町民への普及にも力を入れたと思います。

医療福祉の面では、4月にわかさ生協診療所が「若桜さくらの郷」として新町にリニューアルオープンしました。尾坂所長を中心に医療体制を整備いただき、デイサービスセンターと高齢者住宅を併設し、関係機関と連携しながら地域包括ケアの拠点として町民に医療介護サービスを一体的に提供していただいています。なお、駅前の旧施設跡地は年末に町が購入し、当面は駐車場用地として活用することとしています。

公共交通の面では、コロナ禍で休便となっている日本交通高速バス鳥取―大阪間の若桜経由便ですが、日本交通(株)のご英断により、12月～1月の2か月間、土日祝日と年末年始に試験運行が実現しました。八頭町と協調して運賃を片道1,500円割引引きくこととし



▲日本交通高速バス鳥取一大阪間の若桜経由便試験運行車両

ています。今年4月以降の本格運行につながるよう、町民の皆様のご利用をお願いします。7～8月にはグリーンスローモビリティの2回目の試験運行を実施しました。今回は、鬼ヶ城跡と郷土文化の里（屋堂羅）の観光ルートを新たに加え、一定のニーズが見込めることを確認しました。若桜鉄道については、台湾等の外国人客も増えつつある中、グッズ販売等営業外収益の好調もあり、2期連続の黒字決算となりました。

民営店舗としてスタートし、11月には外壁等の改修工事も終えました。フードセンター小嶋の移動販売も各集落に不可欠な買い物機能として定着していますが、今後も引き続き町内各店舗での買い物にご協力願います。

4月以降池田地域に集落支援員を配置（現在2名）し、集落機能の維持や住民の生活支援に従事、特に「食でつながる居場所づくり」を進めています。10月には、地元「池田くらす会」を事業主体に、町内第1号の地域食堂となる「池田食堂」が開店、ランチ会なども含め、住民のコミュニケーションの場が増えました。池田地域の振興につながることを期待しています。

農業では、（有）若桜農林振興が、集落営農圃場の引き受けなど



▲池田食堂での食事の様子

で経営面積を大幅に増やし、機械を整備し、地域おこし協力隊の採用などで人材育成を図りつつ、米作経営を拡大しました。米価の高騰により、収益の改善が期待されます。林業では引き続き山林境界の明確化に取り組み、森林整備の推進や素材生産量の増加に向けた環境整備を図っています。

観光面では、4月に役場の観光機能を駅前に移転し、観光協会、商工会、若桜鉄道などとの連携を強化し、お金の稼げる観光産業への転換を進めました。関係機関の連携により、デジタルスタンプラリーを導入し、観光地のPRとともに、観光客の滞在時間を増やして飲食や買い物などの消費行動を喚起する仕掛けを構築しました。

昨年は起業相談が増え、秋以降、新規起業が相次いでいます。本屋、電器屋、民宿、靴屋、飲食店など新しい店舗の誕生により、まちの賑わいが増え、地域経済への好影響が期待されます。町としても、起業者のチャレンジをしっかりと応援します。

移住定住の分野でも、新町に住宅団地を整備するため、造成工事

の入札を終え、準備を進めています。来年度中には分譲開始できるよう、進捗を図ります。また、敷地内にはアパートを建設する予定で、今後具体的な検討を進めていきます。

若桜学園の児童生徒は今年も様々な場面で活躍してくれました。駅伝部や吹奏楽部は小規模校ながら優秀な成績を修め、全校俳句の取組では優秀な作品を多数応募し、市民文芸「俳句の部」で学校賞「奨励賞」を受賞しました。また、今年も多くイベントに子どもたちが学年を超えて出演し、会場を盛り上げてくれました。高校生サークル（さくらあくる）もボランティアとしてイベントを支えてくれました。積極的に地域社会と関わる子どもたちの姿は、大変頼もしく、心強いものです。

昨年は県民の悲願であった石破総理が誕生し、今年から看板政策の地方創生2・0が起動します。再生復活を象徴する巳年にふさわしく、今年が日本社会再生の元年となるとともに、町民の皆様の一年度の安寧を願い、新年のごあいさつといたします。